



## 呉羽の梨農家は全員がエコファーマー

呉羽の梨農家は、堆肥等による土づくり、化学肥料・化学農薬の減量の実践に取り組むエコファーマーに全員認定され、環境負荷の軽減や農産物の安全性に配慮した梨作りに取り組んでおります。



《エコファーマーとは》

近年、化学肥料・化学農薬の多用により生じる環境汚染や農地の生産力低下が大きな問題となっています。そのため、環境に配慮しつつ農地の生産力を維持・増進する農業を行う意義は非常に高まっています。

このようなバランスのとれた農業に取り組むため、国の法律（※）に基づいて「持続性の高い農業生産方式」の導入計画を作り、県知事の認定を受けた農業者の愛称が「エコファーマー」です。

（※）持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）

## 呉羽梨の最上級ブランド「エクセレント」デビュー

2012年から呉羽梨の最上級ブランド「エクセレント」が本格デビューします。

このブランドは、これまでの「赤秀」「青秀」の上位ブランドで、甘さや色、形などの厳しい品質基準に合格したものだけに使用が許される名称です。



## 美味しい梨の見分け方

実が固く果皮に張りがあり色ムラがなく適度な赤みがあるもので、お尻が広くて形がよく、手に持つとずっしりと重いものが美味しいようです。

糖度の分布は枝側よりお尻のほうに、また、芯側よりも皮に近いほうが高いようです。



分かりやすくするために、極端な色分けをしています。

果物ナビのホームページより引用したものです。

## さわやかな梨ジュースはいかが

そろそろ夏の疲れが出る頃です。

疲労回復にリンゴ酸やクエン酸を含む美味しい梨のジュースを作ってみてはいかがですか！



### 梨とハチミツのジュース

皮をむいた梨1個をサイコロ状に切り、レモン半分のジュースと、レモンの皮2cm(黄色いところだけ)、250ccの冷たい水、大さじ2のハチミツ、6~10の氷を加えます。

全てをミキサーのボールに入れ、スイッチ・オン。よく混ぜ、大きなグラスにストローとレモンのスライスをそえて出来上がり！これは、2、3人分の大きなグラス用の分量です。

“梨とハチミツのジュース”を最高の味と色で楽しむためには、すぐ飲むことです。

※このレシピは、パトリス・ジュリアンさんのブログを引用したものです。

# 梨の話あれこれ

## 《梨の歴史》

梨は日本で初めて栽培された果実といわれるほど歴史があります。

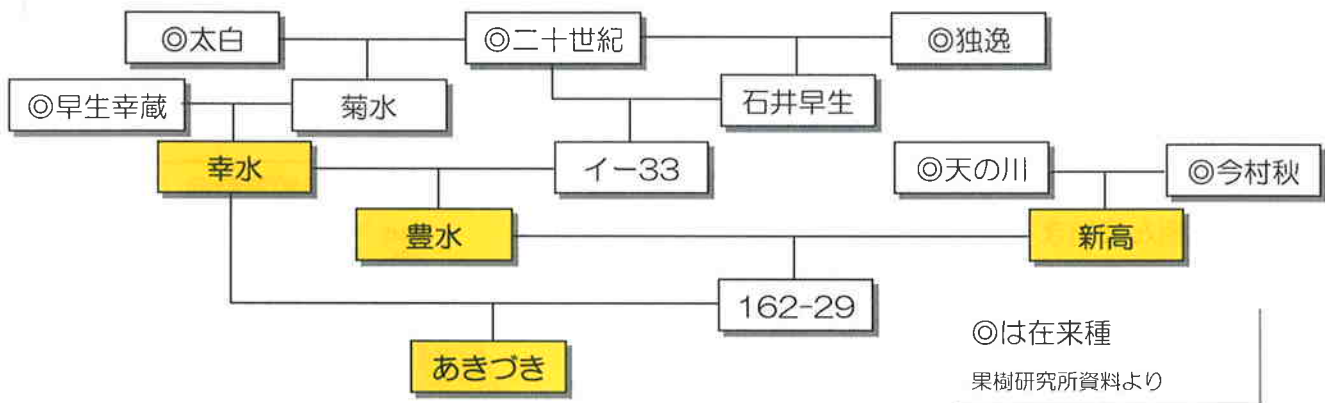
弥生時代の登呂遺跡などから梨の種子が見つかっており、「日本書紀」にも登場し梨の栽培を奨励している記述があります。

鎌倉時代には日常的に食べられ、江戸時代になると盛んに品種改良が行われ、早生から晩生まで100を越す品種が存在したようです。

明治時代には梨の歴史に大きな影響を与えた二十世紀が千葉県松戸市で、長らく梨の代表格として盛んに生産された長十郎が神奈川県川崎市でそれぞれ発見されています。

その後も多くの品種が作られ、梨の品種名は、実物がなくなっているものも含めると1,200品種名以上があるといわれています。

＜呉羽で栽培されている主な梨の系統図＞



## 《梨の不思議》

梨は同じ品種間では、実をつけることができません。また、違う品種でも結実させることができない組み合わせがあるようです。これは細胞にある S 因子という遺伝子の影響によるものだそうで、何か不思議な感じがします。

## 《ちょっと変わった梨の育て方》

右の写真は、何だと思いませんか。

これは、神奈川県農業技術センターで考案された新しい梨の育て方で「樹体ジョイント仕立て」という梨の栽培方法の写真です。

この方法は、主枝を一方向へ延長し、隣接する樹の主幹肩部へ接木により連結し、複数の樹を直線状の単純な樹形にするものです。これにより、慣行栽培のものより早期に収穫でき、剪定などの管理も平易になるとのことです。なかなか、ユニークな梨の育て方もあるものです。

なお、「樹体ジョイント仕立て」には特許権があり、使用にあっては許諾が必要です。



※神奈川県農業技術センターホームページから



# 呉羽梨のピンチ

呉羽の梨園を歩いてみると、あちこちで梨の樹が伐採されている姿が見られます。

これは、梨は高樹齢になると収穫量が減ってくるなどから、呉羽の梨もそろそろ植え替えが必要な時期がきているためです。

しかしその一方、農家の高齢化の進行や担い手不足のため、収穫までに長い年月が必要な梨の植え替えが難しくなっています。

また、景気や消費者ニーズの変化などを反映してか梨価格の低迷が後継者不足に拍車をかけ、残念ながら呉羽梨の生産地ではあちこちで梨の樹がなくなった畑が年々増加しています。

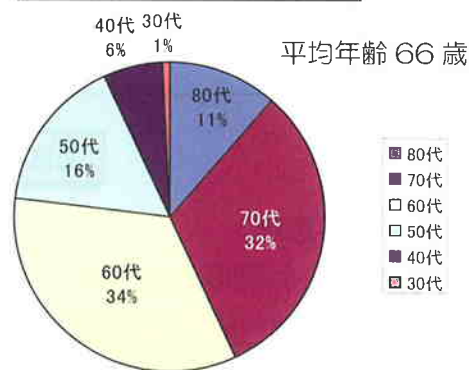
この呉羽梨の危機に、地域あげて後継者の育成、円滑な梨の樹の世代交代、厳格な品質管理、ブランド力の強化、販路の拡大等の対策に取り組んでいます。なかなか思うようにならない現実があります。

平成 21 年度からは建設業などと「呉羽梨生産地域活性化協議会」を立ち上げ、業種を越えた地域の活性化実験おこなっています。

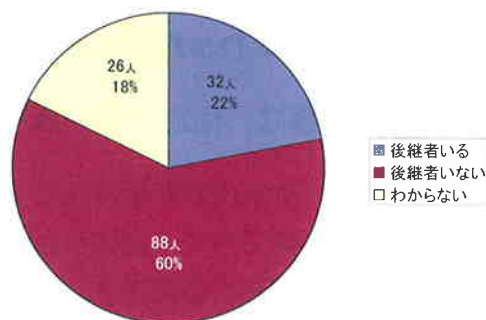


枝葉が切られ梨の幹だけが残っている梨畑

梨生産者の年齢別割合

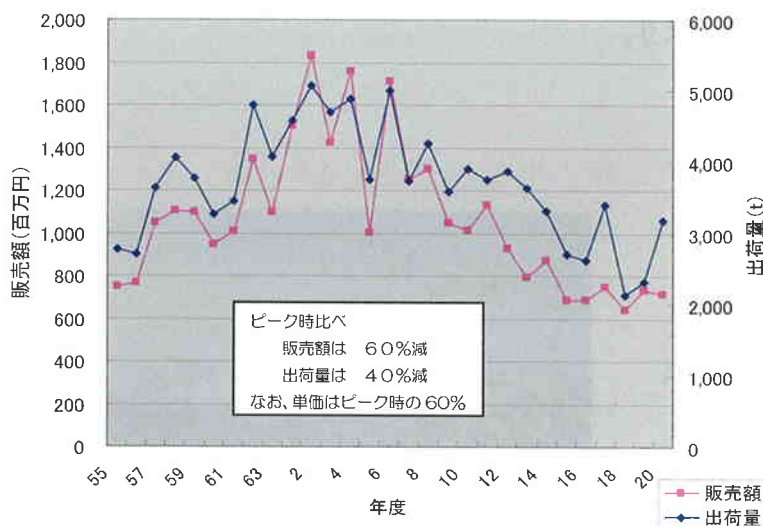


65 歳以上梨農家の後継者の有無



※平成 21 年 8 月のアンケートから

梨の販売額と出荷量



## 呉羽梨生産地域活性化協議会について

この協議会は、平成 21 年度に国土交通省の「建設業と地域の元気回復助成事業」を活用して呉羽梨産地における課題を解決する方策を探るために設立された組織であります。協議会は(社)富山県建設業協会を事業管理者として富山市、射水市、富山市北商工会、呉羽梨産地活性化推進委員会と朝日建設(株)、野村土建(株)、根建工業(株)が構成員となっています。

### ①五百羅漢 曹洞宗長慶寺

民俗民芸村から少し足を伸ばしたところにある長慶寺には、五百余の石仏が立山連峰を遥かに望むように建っています。木立の中にたたずむ羅漢様の表情は穏やかで、訪れる人の心を和ませます。

(梨選果場から約3.7 km)

### ②富山市民俗民芸村

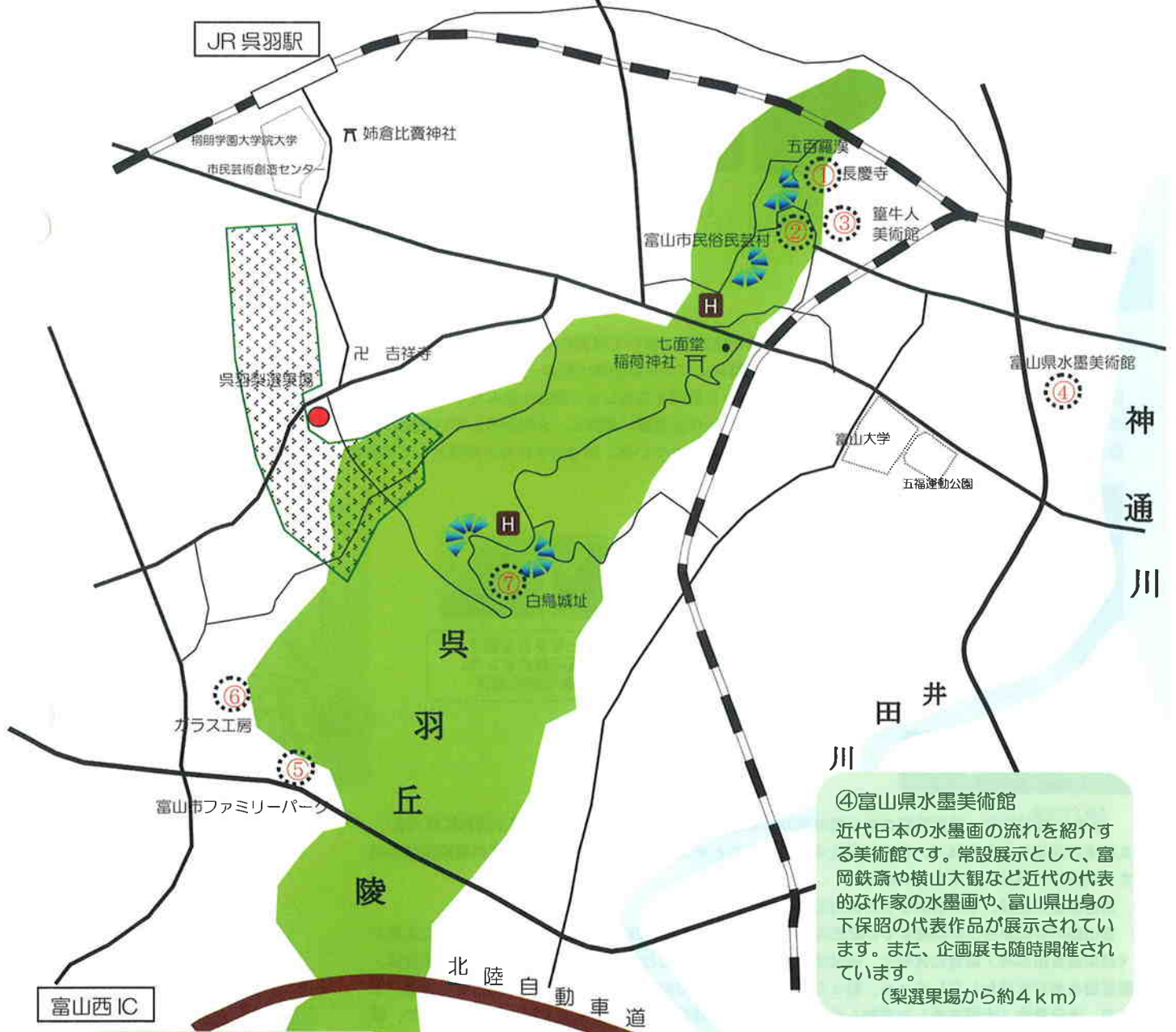
ここにはさまざまな資料館や美術館などが点在しています。

民芸合掌館 民芸館  
売薬資料館 陶芸館  
考古資料館 とやま土人形工房  
茶室円山庵 簗牛人記念美術館  
(梨選果場から約3.5 km)

### ③簗牛人記念美術館

富山市民俗民芸村の中央部にある美術館。この美術館は、異色の水墨画家 簗牛人の自宅兼アトリエがあったところに平成元年に建築され、その画業を紹介しています。作品は、日本や中国の故事などを主な画題に独自の湯筆技法により豪放で美しく描かれています。

## 選果場近くの見どころマップ



### ⑤富山市ファミリーパーク

郷土の動物たちを中心に、現在107種の動物が飼育されています。キャンパスの里山の自然は、生き物のつながりが作りだす世界です。自然の美を感じ、心地よい森の体験が楽しめる場所となっております。

(梨選果場から約3 km)

### ⑥富山ガラス工房

ガラスのまちづくりに取り組む富山で、技術と芸術、産業と文化を結ぶガラス造形作家の活動拠点となっています。ガラス芸術の開かれた創造の場として、ガラスとのふれあいの場として、楽しんでいただける施設であります。

(梨選果場から約2.4 km)

### ⑦白鳥城址

呉羽丘陵の最高峰にあって、眼下に富山平野を一望できます。1585年に豊臣秀吉の陣が富山城の佐々成政を攻めたときに陣を構えたことでよく知られています。今でも郭跡などは良好な状態で残っています。

(梨選果場から約2 km)

### ④富山県水墨美術館

近代日本の水墨画の流れを紹介する美術館です。常設展示として、富岡鉄斎や横山大観など近代の代表的な作家の水墨画や、富山県出身の下保昭の代表作品が展示されています。また、企画展も随時開催されています。

(梨選果場から約4 km)



## 近くの伝説、歴史紹介

### 七面堂と長久院・稲荷神社

峠茶屋から五福にぬける県道の切り通しの右側の狭い急な階段を登っていくと七面堂がある。この七面堂は万治年間（1650年代）に富山藩士奥村篤人が御堂を建て甲州身延山の七面大明神（日蓮宗総本山久遠寺の守護神）と同型の木像を祀ったので七面堂と呼ばれるようになった。

のちに二代藩主前田正甫が、この地に寺を建て武運山長久院と名づけた。当時、長久院から七面堂まで男坂、女坂の二道が設けられ、宝塔が高くそびえ山上には大燈炉が夜通し燈されていた。明治3年（1870年）の合寺令で御堂、塔とも取りこわされている。

なお、七面堂から狭い山道を歩いて数分のところに、この七面堂の分霊「七面大明神」と「倉稲魂命」を祭神として祀っている稲荷神社がある。（七面堂、稲荷神社案内板より）

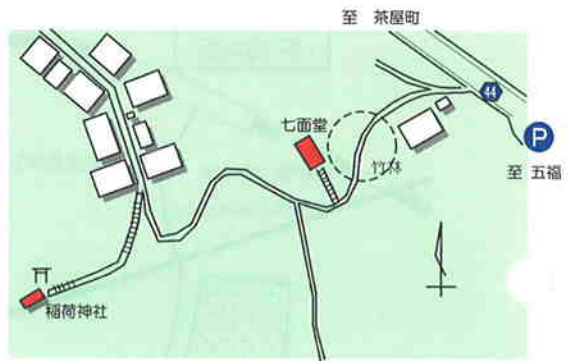


七面堂

七面堂に向かう竹林の中の山道

稲荷神社

狛犬風お狐様



### 吉祥寺と蛇池

呉羽梨果場前の信号機のある交差点をJR呉羽駅方向に歩いて数分の所に吉祥寺がある。

この曹洞宗円通山吉祥寺は約500年前の戦国時代に立山大徹禅師十哲の一人越叟冷潤大和尚が呉羽源山の地に越叟寺を建立したことにはじまる。当時、呉羽山西麓に一匹の大蛇が棲みつき田畑を荒らしたり家畜を呑んだりして人々を苦しめていた。越叟寺三世越山本宗禅師が大蛇の棲む池におもむき読経祈禱により退治した。人々は禅師に帰依し、大蛇が棲んでいた池のほとりに堂宇を建立し越叟寺を吉祥寺と改称し現在にいたる。蛇池は現在の本堂裏に昔のままに残されている。蛇骨は吉祥寺の宝物として保存されている。（吉祥寺案内板より）



蛇池に通じる坂道

どこかユーモラスな様子なので写真に収めました。山門横にある塚の鬼瓦



### 姉倉比賣神社

あねくらひめ 姉倉比賣神社はJR呉羽駅のすぐ南の丘の上に鎮座している。灯籠のある参道や境内には大きな樹木が何本も生えており、神社の歴史を感じとることができる。上杉謙信が越中での戦勝祈願の願文を奉納した神社として有名である。

姉倉比賣神社は、この呉羽小竹と富山市船倉とにある。

富山県の神代から江戸初期までの歴史的伝承を記した江戸時代の文献「<sup>こうこうせんたつろく</sup>宵櫓泉運録」によると「越中船倉山の神・姉倉比賣命は、能登補益山の伊須流伎比古と夫婦であったが、伊須流伎比古は、能登姫と契りを交わしてしまった。怒った姉倉比賣は、一山の石を投げ尽くして、能登姫を攻撃。そこで、大己貴命（大国主命）が越路へ赴き、乱を鎮圧。姉倉比賣は混乱を引き起こした罰として、領地を没収されて呉羽小竹に流され、土地の婦女たちに機織を教えるよう命じられた。」という。なお、「婦負郡」という地名は姉倉比賣神にちなむものであり、「呉羽」の地名も機織に関係のあるものだろうである。



神代からの樹ではないが、大きな樹から歴史が感じとれる。

